

# 待 兼 山



## 大阪大学経済学部同窓会

2020年（令和2年）4月1日 第36号

ホームページ <http://www.machikaneyama.jp>



### 就任のご挨拶

経済学研究科長・経済学部長

福田 祐一

令和2年4月1日付で経済学研究科長・経済学部長に就任いたしました福田祐一です。平成4年に大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程を中退し、同経済学部助手、和歌山大学経済学部、神戸大学経営学研究科を経て、平成15年から再び本学に奉職しております。専門は、金融・ファイナンスで、特に、国債市場や株式市場を対象とした実証分析を行っています。大学院時代は、蠟山昌一先生に、研究を進める上での大切な点を、多岐にわたり温かく、時には厳しく、ご指導していただき、現在の教育者、研究者としての姿勢に大きく影響していると感じています。

昨年度は、名誉教授の猪木武徳先生が文化功労者に選ばれ、堂目卓生先生が紫綬褒章を受章され、経済学部・経済学研究科にかかわるものとして誠に喜ばしい限りです。堂目先生が、

お祝いの会の席で、学部・研究科のアカデミックな雰囲気が研究を支えてくれたとおっしゃっておられましたが、創立以来、日本における経済学研究の発展を担ってきた歴史の積み重ねが、両先生方のご顕彰につながっているものと感じております。また、アカデミックな成果に基づく教育を、学部および大学院において実践してきたからこそ、同窓生の皆様が、様々な分野でご活躍され、これまでの同窓会と経済学部・経済学研究科との深い関係につながっているものと思っております。4月から研究科長・学部長を務めさせていただいておりますが、この点を大切にしながら、経済学部・経済学研究科の運営に携わってまいりたいと考えております。

平成30年の経済学部創立70周年記念事業では、経済学部・経済学研究科同窓生の皆様に、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。おかげをもちまして、昨年度より、研究者を目指す経済学部出身者に対する支援をはじめいくつかの事業をスタートさせることができました。今後も、経済学部同窓会との関係を、より深めていけるよう全力を尽くす所存でございます。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



### 退任のご挨拶

経済学研究科・教授

谷崎 久志

本年3月31日をもって、経済学研究科長・経済学部長を退任しました。2年7か月という在任期間でしたが、在任中、同窓会の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。私自身、学部・大学院ともに大阪大学の卒業生ではありませんでしたので、最初の頃は居心地の悪さを感じていました。思い起こすと、同窓会関係の主な行事は、

(i) 大阪大学全体では、ホームカミングデイ、大阪大学の集いin東京、名古屋、福井、香川、(ii) 名古屋待兼会（経済学部・法学部の愛知・三重・岐阜在住中心）では総会、(iii) 経済学部では、ホームカミングデイ、総会、同窓会運営委員会、代表幹事会などでした。大学の教員は同じ専門分野の他大学の教員とは交流はありますが、一般企業の方々との交流はほとんどありません。このような同窓会を介した集まりで、様々な方にお会いする機会を持つことができ、大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。特に、2018年度は経済学部70周年で、皆様にはひとかたならぬご協力とご支援を賜りました。この場を借りて、御礼申し上げます。最後になりますが、今後も、経済学部同窓会のますますの発展をお祈り申し上げます。



同窓会長ご挨拶

## 同窓会の将来像

経済学部同窓会 会長 井上ゆかり

日本ケロッグ合同会社  
代表職務執行者社長(新33期)

この度、大阪大学経済学部同窓会第12代会長に就任致しました、井上ゆかりと申します。一昨年70周年を迎え1万人の会員を有す伝統あるこの会でこのような役目を頂戴しましたのは身の引き締まる思いでございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以前同窓会誌でもご紹介しましたように、現在の私があるのは大阪大学経済学部で学んだ故嶺山昌一先生のお陰であります。卒業年次が雇用機会均等法の前年ということで、「女性に対してフェアな外資系を目指しなさい」とのアドバイスを頂き、現在まで思う存分仕事をすることができました。ゼミの授業や合宿を通じて、エスプリとウイットに満ちた先生のコメントの一つ一つは今でも心に残っております。先生がお亡くなりになった後もゼミ会が継続しているのも先生のお人柄由縁でありましょう。また、経済学部の同期の仲間とは社会人になっても交流を続けており、元気を頂いています。大阪大学経済学部で学んだ日々そしてその後のご縁により今の自分が生かされていると思うのです。そんな、経済学部同窓会を通じて恩返しができることを本当に有り難く思っております。

就任にあたり、当面の課題は、今後の同窓会のあり方を考えることだと理解しています。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、同窓会の運営は、毎年2回から3回開催される代表幹事会の決議に拠っています。代表幹事会で討議された内容を2年に一度開催される総会で決議され活動内容が確定します。総会の翌日の懇親ゴルフ、セミナー&懇談会、ホームカミングデイなどのプログラムもございます。2009年に立ち上げられた学生部会のECOCAも種々の活動を行っています。また、年に一度この同窓会誌を現存の住所録を元に同窓生全員にお送りしています。

しかしながら、残念なことです。どの行事においても出席者が年々減っております。例えば、20年前の

総会の出席者は223人でしたが、10年前には、127人、昨年は111人でありました。代表幹事会も、20年前は、54%の出席率でしたが、10年前は37%、今年直近は、32%という現状です。

同窓会年会費徴収の現状についても懸念がございます。年会費納入率は5%です。卒業生の5%が納めてくださっている会費で同窓会が運営されているのです。非常に気がかりなのは、将来を担う40代半ばより若い卒業生の納入率が、1%に過ぎないことです。

卒業生の皆様が同窓会に何を期待してくださっているのかを今一度見直す時期にきているのではないかと考えております。具体的な施策を考えるにあたり、一番大切なのは、運営の肝である、代表幹事会を活性化させることだと思います。代表幹事は、卒業時1名選出されているのですが、皆さん、ご自分の学年の幹事がどなたかご存知でしょうか？現在、各学年代表幹事の皆様とコンタクトを取り、ご出席いただける方に変更していく作業を行っております。

大阪大学経済学部を大切に思っている卒業生の皆様、先生方のお力になれ、学生さんのお役に立てるためには何ができるのかを考えようではありませんか。古い友人との縁をより強いものとしつつ、先輩後輩各位との新たな関係を築くことに意味を見出すために何ができるのか模索しようではありませんか。一緒に考えたいと思ったださる方々、代表幹事になっていただけると幸いです。どうぞ、事務局にご連絡ください。

簡単なことではないかもしれませんが、きっと、新しい大阪大学経済学部同窓会像を描いていくことができると信じております。ご協力、ご理解の程をお願い致します。

末筆ではございますが、皆様方の益々のご健勝をお祈り致しますと共に、同窓会活動でお目にかかれますことを楽しみにしております。

# 「サステナブルな企業経営」

住友商事株式会社 会長 中村 邦晴氏(新22期、1974年卒)



## ◆自己紹介

私は経済学部22期生です。大阪生まれ、大阪育ちで大阪大学を卒業し、住友商事に勤めましたが、会社に入ってから大阪勤めはありません。そこで少しは母校のお役に立ちたいと、この講演会をお引き受けさせていただきました。住友商事では主に自動車畑を歩み、海外は米国とプエルトリコに2回赴任し、その後は役員・社長を経て、現在は会長を務めております。

## ◆本日は、4つのテーマで話したいと思います。

まず1つ目は住友商事という会社についてです。住友商事は、今年12月で設立100年を迎えますが、住友グループ400年の歴史の中では後発会社です。住友グループは400年前に初代住友政友が起こしましたが、政友は多くの教えを残しました。それは、商売というより、人生訓に近く、今でも住友の事業精神の根幹をなしています。以下の4つが代表的なものです。

「万事入精」(何事に対しても、一生懸命にやること)

「信用確実」(信用を重んじ、確実を旨に商売をすること)

「不趨浮利」(浮利を追わず、簡単に儲かる仕事はしないこと)

「進取敢為」(新しいことに挑戦すること)。

## ◆2つ目は総合商社についてです。

当社も含まれる総合商社は、日本特有のもので、日本の産業発展と共に業種やエリアを拡大し、VALUE CHAINを構築しました。商社の機能は①商取引②リスクマネジメント③グローバルネットワーク④物流手段⑤市場開拓⑥金融機能(商社金融)⑦事業開発・経営機能⑧オーガナイザー機能に分けられますが、時代の先取りをし、求められていることに応えることで、持続できてきました。いわばダーウィンの進化論です。

## ◆3つ目は現在の世界の潮流と当社の中期計画・人材育成についてです。

現在、社会環境の変化が激しく、業界という壁がなくなり、BUSINESS MODELが変わりつつあります。商社には技術力は無いので、変化を素早く捉え、成長分野に集中することが大切です。2020年までの当社の中期計画は、①既存事業のVALUE UP②次世代新規

ビジネスの創出③プラットフォーム事業の活用を掲げました。それぞれ積極的改革を進めていきますが、改革には人材育成が最も大切です。仕事が夢を作り、その夢が人材を作り、その人材が仕事を作るという循環を大事にしていきます。

## ◆4つ目はSDGsとMATERIALITY(重要課題)についてです。

SDGsは2015年に国連で設定。2030年までに世界が克服すべき17の社会的課題です。SDGsにどう取り組むかは、現代の企業にとって非常に重要です。当社は、1998年に、「常に変化を先取りし、新たな価値を創造し、社会にするグローバルな企業グループをめざす」という経営理念を定め、その後2017年には6つのMATERIALITYを定めました。GLOBAL社会がSDGsを共通ビジョンとして明確にする中で、住友商事が社会の先頭に立って取り組むための6つのポイントです。「地球環境との共生」、「地域と産業の発展への貢献」、「快適で心躍る暮らしの基盤づくり」、「多様なアクセスの構築」、「人材育成とダイバーシティの推進」、「ガバナンスの充実」です。当社では、どのMATERIALITYにも該当しない新規事業は承認されません。それを徹底することでMATERIALITYが浸透されていきます。

## ◆最後に、現代の企業は、SDGsが描く課題への協力を強く求められています。

ただ、個々の企業が社会との共生を目指さないと、持続可能(サステイナブル)な社会は実現しません。企業自身の成長は、ビジネスの基盤となる健全な社会があってこそ実現します。住友商事グループは社会と共生し、社会が真に必要なものを提供し続けることで、社会とともに成長していきます。利益は大事ですが、それよりも社会から必要とされる会社、社会から尊敬される会社になることを目指していきます。それこそが立派な会社であり、立派な会社だからこそ、これからもサステイナブルであり続けると思っています。

以上で私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

# 東京待兼会だより

会長 西本 麗 (新28期)

東京待兼会では、東日本の同窓生の交流促進のためのさまざまな活動を行っています。昨年度開催した主な行事を紹介いたします。

## 1. 講演会・懇話会

法学部（青雲会）と共催で講演会及び懇親会を開催しています。春季はOFC（経済学部オープンファカルティセンター）とも共催です。

### 【春季懇話会】

5月23日、学士会館にて第17回春季懇話会を実施しました。講師はお怪我で急遽欠席となった大阪大学経済学研究科の延岡健太郎教授にかわり、西本が「食糧増産の重要性と農業のイノベーション」というテーマでお話をいたしました。懇親会にも30名以上の参加者がありました。



### 【秋季懇話会】

11月30日 二松学舎大学にて開催し、10名が参加しました。松本郁夫氏(株)セントラルFX短資 代表取締役、法学部新28期卒)が、「為替との格闘」とのテーマで講演。

## 2. 例会

「知の継承」をめざし例会(勉強会)を開催しています。毎回10～20名規模で開催。講師は基本的に同窓生の持ち回りです。

- 第19回 3月16日 石田一郎氏  
「SDGsを実感するワークショップ」
- 第20回 6月22日 関林亨平氏  
「ラグビーワールドカップの楽しみ方」
- 第21回 7月27日 佐々木誠氏  
「活気ある都市センターを創る」
- 第22回 11月16日 小浜正幸氏  
「私の米国・中東経験から見たトランプ大統領と中東の現状」

## 3. ゴルフ部会

### シニア懇親ゴルフコンペ

5月22日

泉カントリークラブ

### 第15回初打ちコンペ

1月11日

昭和の森ゴルフコース



## 4. ビアパーティー

7月25日、学士会館にて開催。約15名が参加し、世代を超えた同窓生の交流を深めました。

## 告知

### 東京待兼会総会・春季懇話会を開催します

日時：2020年5月28日(木)18:00～

場所：学士会館(千代田区神田錦町3-28)にて

講師：大阪大学経済学研究科・経済学部

教授 延岡健太郎氏

演題：「顧客価値のイノベーション

日本企業に求められる価値づくり経営」

東京待兼会 (<https://tokyo-machikanekai.org/>)

# 名古屋待兼会だより

会長 井内 敬 (新11期)

名古屋待兼会は、経済学部、法学部の卒業生を中心に昭和30年代に発足し、愛知・岐阜・三重の在住者が主な会員です。最近では理系学部の卒業生も参加しています。

会合は「小の月の第三土曜日の18時から」を基本に、場所は名古屋の中心部に近いホテルで開催し、11月は総会、他の月は例会としています。毎回20名前後の出席で、例会の冒頭では会員の方が交代で様々なテーマについて約30分話をし、その後は懇談です。懇談中に、出席された方々に近況や関心事などを話していただける場を設けていることもあり、交流をさらに深めることができる、それも名古屋待兼会の特色の一つです。



昨年11月の総会では中山法学部長をお迎えし、ご講演をいただきました。

会合には新規会員の方が毎回のように

いらっしゃいますが、すぐに打ち解けられ、その後の会合に継続して出席いただいています。大阪大学に学び、現在は名古屋地区で暮らしているというのも何かの縁だと思います。名古屋待兼会では、世代を超えた会員の輪がさらに広がることを願い、新たな会員の参加を心よりお待ちしております。(同窓会事務局までご連絡ください。)

昨年の総会・例会のテーマは以下のとおりです。

### ■ 4月例会「リサーチの変容」

中西真知子さん (S51・人科)

### ■ 6月例会「トルコについて少々」

谷定男さん (S39・経)

### ■ 9月例会「小野道風と京都」

永田三郎さん (S33・経)

### ■ 11月総会

法学部長・中山竜一教授に「リスク社会における法学教育」のテーマでご講演をいただきました。

## 期会、ゼミ会だより

### 新制5期(昭和32年卒) 「一水会」40周年記念大会

2019(令和元)年12月4日、桃谷楼あべのハルカス店で、「一水会」40周年記念大会を開催した。経済学部同窓会の活性化を契機として、昭和28年入学の法経学部7名による情報交換を目的に、昭和54年2月に始めた当会も今年で40周年を迎えた。当時は年6回開催し、参加者も増え会員数は70名を超えたが、寄る年波には勝てず、現在は年3回の開催、会員数も約30名に減少している。

今回の40周年記念大会では、東京より2名駆けつけてくれ、参加者は23名となった。85歳の老人の集まりであるが、学生時代に戻り、話が弾み大いに盛り上がった。卒寿まで当会を続けようと、皆で誓い合い散会した。



### 新制6期(昭和33年卒) 最後の「33(燦燦)会」

2019年11月22日、最後の「33(燦燦)会」を開催した。八十路に入れば寄る年波に抗し難く、同期会の出席者も年々減少し昨年は7名にまで落ち込んだ。このあたりが潮時とみて今年を最後の会として呼び掛けた結果、千葉、岐阜、岡山からも駆けつけてくれて、御歳95歳の恩師 藤田晴先生を含めて13名の会となった。

積もる思い出話は尽きないが、また有志が声を掛けあって会おうではないかと言いながら、最後の幕を閉じた。



**経済学部同窓会では、会員の皆さんの役に立つセミナーを開催しています。開催案内は同窓会ホームページに掲載しています。ぜひご参加ください。**

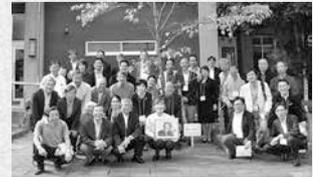
### 蠟山昌一先生17回忌ご供養・ ご生誕80年記念のゼミ同窓会

先生の誕生日でもあった2019年10月19日、蠟山ゼミ卒業生有志にて、先生の17回忌のご供養とご生誕80年を記念して、大阪大学豊中キャンパス生協会館にて同窓会を開催した。卒業生の参加者は35名で、奥様にもご臨席いただいた。

参加者は、1973年卒から1998年卒までの25年間の教え子たちで、世代を超えて恩師である蠟山先生の在りし日の教えを懐かしむとともに、もし先生がご存命であれば、現在の政治経済や社会にどんなご見識を持たれるのだろうか、想い出が募った。

参加者による「ひとり一言」のコーナーでは、一人ひとりのゼミ時代の想い出が尽きず、先生との多くのエピソードが飛び出すなど、あっという間に閉会の時間を迎えた。

16年前にゼミ卒業生有志が法経講義棟横に「蠟山先生を偲んで植樹したハナミズキ」は、幹も大きくなり、今年も元気に花を咲かせている。時の経過とともに先生の教えを紡いでいくことの大切さを改めて感じた同窓会となった。



### 小泉先生の卒寿をお祝いする会

2019年9月22日、大阪 Marriott 都ホテルにて、「小泉先生の卒寿をお祝いする会」を開催した。前回の叙勲・褒賞をお祝いする会から、約12年ぶりの開催となったが、全国からゼミ卒業生36名が参加した。上は新制11期、下は新制39期まで、幅広い年代が語り合い、和やかな会となった。

小泉先生は相変わらず若々しく、自ら各テーブルを回られ、卒業生と語らわれていた。3時間余りの時間が短く感じられる、楽しい時間を過ごすことが出来た。



### 新制第13期(昭和40年卒)同期会

2019年4月19日、毎年恒例の「新制13期同期会」を、大阪大学中之島センター7階交流サロンで開催した。出席者は14名で、昨年の18名に比べて若干減少したものの、出席者は喜寿を過ぎているとは思えないほど元気で、お互いの近況や懐かしい昔話に花を咲かせ、あっという間に楽しい2時間が過ぎた。

今後、年々出席者が減っていくことが予想されるが、お互い健康に留意してできる限りこの会を続けていこうと、2020年4月17日(金)に、この場所での再会を約束して散会した。



# 「共感社会をめざして — 経済学がたどってきた道 —」

大阪大学大学院経済学研究科教授  
社会ソリューションイニシアティブ長

堂 目 卓 生



「経済」(economy)とは何か。「economy」は「eco」と「nomy」の音節に分けられる。「eco」はギリシャ語のoikosにあたり家や生活圏という意味、「nomy」はnomosにあたり法という意味をもつ。つまり同じ家(生活圏)に住む人びとの命を維持するために限られた資源を分配するルールである。日本語では、明治時代に福沢諭吉、西周らが外来語の翻訳をいろいろ試みたが、economyに対しては、中国語の「経世」と「済民」から「経済」という訳語を充てた。その意味は、民を(貧困の)苦しみから救い、世を治めるとのことだ。私は経済学部長の時、「経済」の本来の意味を入学生へのはなむけの言葉として送った。

「経済」の本質について考えるための題材として、リンゴ9個を3人でどう分けるかという簡単な問題を考えて見よう。

[実際に堂目先生が会場の参加者に質問し、分け方を聞いたところ(1)平等に分ける、(2)体の大きさにあわせて分ける、(3)小さい子に多く与える、に分かれた。その後、「9個は今朝3人が拾ってきたものでそれぞれ5個、3個、1個だった」、「3人はすでに5個、3個、1個持っている」などの情報が追加され、リンゴの分け方が議論された。]

このような簡単な問題でも意見の違いがある。情報を追加しても意見が収束するとは限らない。そして「平等な分配」「成果主義」「弱者優先」の分け方には、それぞれもっともな理由がある。いろいろな社会問題がこの問題に帰着できる。なぜ意見が違うのか。それは、「人間とは何か」「社会はどうあるべきか」についての考え方が違うからである。

## ◆人間学的重要性

次に、諸科学、人間学、政策の関係を考えてみよう。諸科学と人間学(「人間とは何か」を問う諸学問)は相互に関係する。諸科学の成果は政策に活用される。政策には人間学も不可欠である。また、政策が諸科学、人間学に影響を与える可能性もある。18世紀の英国(スコットランド)を代表する哲学者デイビッド・ヒュームは著書『人間本性論』で「明らかにあらゆる学問は多かれ少なかれ人間の自然本性に関係を有し、人間本性からどれほど遠く隔たるように見える学問でも何らかの道を通して、やはり人間本性に結びつく。数学、自然哲学および自然宗教でさえ、ある程度人間学に依存している。... 数学、自然哲学および自然宗教の諸学が、人間を知ることによってこれほど依存しているのであれば、人間本性との結びつきがより密接な他の諸学[論理学、道徳哲学、文芸批評、政治学など]においては、いったいどれほど依存していることが期待できるだろう。」と人間学の必要性を述べている。

本日は独自の人間学を形成しながらめざすべき社会を構想してきた3人を取り上げる。

## ◆A. スミス「フェアな競争」

アダム・スミス(1723～1790)は、スコットランドの英国への合邦、英仏7年戦争、米国の独立、フランス革命前夜という時代、また産業革命につながる発見がなされた時代を生きた。生涯に刊行された2冊の本、『道徳感情論』と『国富論』は当時でも有名になったが、後世に大きな影響を与えたのは『国富論』である。そこでは、利己心が「見えざる手」によって社会の繁栄をもたらすことが示された。しかし、スミスは利己心にもとづいた競争を無条件に認めたわけではない。共感(シンパシー：他人の感情を自分の心の中に写し取り、同じ感情を引き起こそうとする心の働き)にもとづいた道徳的抑制によって「フェアな競争」を実現すべきだと考えた。めざしたのは、フェアな競争を通じて物質的豊かさを追求する社会であった。東インド会社、ギルドなど排他的な特権で経済を独占する時代であって、スミスの主張は独創的であった。しかし、(1)競争に参加できない人びとを包摂すること、(2)国や民族、文化や宗教の違いを乗り越えて、道徳を共有することの2点について課題を残した。いかにして「共感」の範囲を広げるかという課題を残したのである。

## ◆ J. S. ミル「機会の均等化」

スミスが残した課題にこたえる道を選んだ経済学者のなかに、ジョン・スチュアート・ミル(1806～1873)がいる。産業革命の成果が目に見える形になった時代、英国が絶頂期を迎える時代を生きた。ロンドン万国博覧会(1851)の水晶宮(クリスタルパレス)は英国にしかできない建造物であるが、一方で「キング・コレラの王宮」として風刺されるスラムも発生した。所得格差が広がっていく時代でもあった。そういう時代にあり、ミルは、格差をなくし諸個人が自由に能力を伸ばすために「機会の均等化」を訴えた。ミルによれば、(1)個人は、質の高い快楽を求めるべき、(2)社会は、個人が性格に応じて自由に快楽を追求できるよう、多様性を容認し、あらゆる人に諸活動の機会を開くべきであった。労働者が強い酒を飲んでいるときが幸せだと言ったとしても、それは他の快楽を経験していないからだ。機会均等化を進める政策として、普通教育、女性の政治参加、財産を平等化するための相続税の導入、生産協同組合等、労働者が経営を実践する社会主義的実験を提案した。ミルの提案は、より多くの人をフェアな競争に参加させることによって、経済成長と平等な分配を両立させようとするものであった。

## ◆ A. セン「人間開発」

アマルティア・セン(1933～)は、ベンガル(現バングラディッシュ)の生まれで、ベンガル大飢饉、東西パキスタンの独立を体験しインドに移住、英国で学び、1998年に経済倫理学の樹立でノーベル賞を授与された。センが求めたものは「人間開発」である。(1)個人は、自分のケーパビリティ(選択の幅:やろうとすればできること)が最大になるようエージェント(積極的主体)として行動すべき、(2)社会は、個人がエージェントとして行動できるよう5つの「手段としての自由」を整備すべき、とする。5つの自由とは、①経済的便宜(物質的豊かさ)、②政治的自由(政治への平等な参加)、③社会的機会(開かれた教育や医療サービス等)、④透明性の保障(情報への自由なアクセス)、⑤保護の保障(危機管理の整備)である。センは不利な境遇にある個人のケーパビリティを拡げることを全体としての物質的な豊かさよりも優先する社会を構想した。

このように見ると、経済学は「強い人」「優れた人」が生産する財・サービスを「弱者」(生産に貢献しない人)にどのように分配するかを考える道をたどってきたと言える。

## ◆ 発想の転換の必要性

しかし、ここで立ち止まって考えなくてはならないのは、「弱者」は本当に弱者か、「強い人」によって助けられるだけの存在か、「強い人」は本当に強いのか、「弱者」を助けるだけの存在かということだ。たとえば、心

や身体に障がいをもたない人は、障がいをもつ人になることを恐れ、そういう人を遠ざけ、向き合うことを避けようとする「弱さ」(心の壁)を持っているのではないか。差別や暴力の根源はこうした「強い人」の中に秘められた「弱さ」にあると思う。ゆえに、「強い人」が「弱者」に向き合い、共に生活することで自身の中にある「弱さ」に気づき、それを受け入れ乗り越えていくことによって、真の安心社会、真の共生社会を形成していかなくてはならない。そうすると、「弱者」には、共感社会を創っていくための存在意義があるということになる。これは、これまでの経済学が見過ぎてきた逆転の発想である。

## ◆ 「社会ソリューションイニシアティブ」による構想と実践

私が考える共感社会とは、(1)「弱者」と呼ばれる人びとを中心に置き、「強い人」「優れた人」と呼ばれる人びとが「弱者」と向き合い、共感し、自身の中にある「弱さ」(心の壁)を認め、それから解放される社会、すなわち「弱者」「強い人」「優れた人」の区別が意味をなさない社会であり、なおかつ(2)市場原理を活用した生産、交換、消費によって、財とサービスが人びとにいきわたる社会である。これは経世済民学としての経済学の新たな課題であり、実現するには、他の学問分野および社会との連携が必要である。

めざすべき社会の構想は色々あるだろう。しかし、いずれにせよ私たちがなすべきことは、(1)めざすべき社会を構想する、(2)日本社会およびグローバル社会において、何が課題か、その課題の解決のためには何が必要か、あるいは何ができるかを考える、(3)与えられた場において、仲間を作り、実験し、行動する、ことである。

幸いにも、私には大学内のシンクタンク「社会ソリューションイニシアティブ」(SSI)という場が与えられた。

今後、日本では、人口減少、高齢化、少子化、地方の衰退、所得格差の拡大、自然災害等が、世界では、人口増大、貧困、格差、環境破壊、伝染病、紛争、移民・難民、エネルギー等が深刻化するだろう。日本を含む世界は、底にいくつもの穴が空いている船にたとえられる。どのようにして穴を防ぐか?(諸課題の解決)、船をどこに向かわせるべきか?(未来社会の構想)が求められている。

このような状況のなかで、1930年代のケインズの言葉「大胆になり、開放的になり、実験をし、行動を起こし、さまざまな可能性を試すべき」を思い起こし、前進すべきである。

(本稿は、堂目先生の紫綬褒章受章を記念して2020年1月23日に大阪大学経済学会が主催した特別講演会の要旨を事務局でとりまとめたものである。)

# 新幹事紹介



68期代表幹事  
加藤 優介

この度同窓会第68期代表幹事を務めさせていただくことになりました、加藤優介と申します。

大阪大学経済学部で4年間を過ごした中で、同窓会や経済学部OBOGの方の存在は、私にとって非常に大きなものでした。同窓会の下部組織である大阪大学経済学部同窓会学生会部会(ECOCA)の運営メンバーとして4年間活動し、様々なイベントで同窓会から支援をいただきました。その中で、経済学部生とOBOGの方の橋渡しになるようなイベントの企画をしておりましたが、学生の時に様々なフィールドでご活躍されているOBOGの方のお話を聞くことができるというのは、非常に貴重な機会であったと思います。自分自身も、学業

やサークル活動などで困った時、不安な点があった時、同回生や先輩・後輩に助けられたという場面が多くありました。同回生との「横のつながり」や、先輩・後輩・OBOGの方との「縦のつながり」が、充実した学校生活を送るために不可欠であったというのが、大学生活を終えて強く感じていることです。

代表幹事という大役を務めさせていただくということに対して不安はありますが、卒業した後も大阪大学経済学部に関われることは非常に嬉しく思います。縦・横のつながりの強化を含め、同窓会のさらなる発展と活発化のために、一生懸命努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 2019年度経済学部卒業生就職先 (大学院卒を含む) (順不同)

就職先	人数	住友商事(株)	1	(株)MonotaRO	1	(株)ベネッセコーポレーション	1
経済産業省	1	(株)パーツワン	1	(株)西松屋チェーン	1	(株)リクルートホールディングス	2
国土交通省	1	日本航空(株)	1	日本コープ共済生活協同組合連合会	1	(株)公文教育研究会	1
静岡県庁	1	SGホールディングス(株)	1	ケーブルテレビ徳島(株)	1	(株)日本総合研究所	1
京都府庁	1	京阪ホールディングス(株)	2	(株)日本経済新聞社	1	山田コンサルティンググループ(株)	1
鹿児島県庁	1	阪急阪神ホールディングス(株)	1	朝日放送テレビ(株)	1	(株)ネオキャリア	1
神戸市役所	1	西日本旅客鉄道(株)	1	東映(株)	1	(株)レオクラン	1
和泉市役所	1	東日本旅客鉄道(株)	1	アマゾンジャパン合同会社	1	Ernst & Young	1
大阪府警察	1	ヤマト運輸(株)	1	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	1	EY新日本有限責任監査法人	2
独立行政法人日本学術振興会	1	日本郵便(株)	1	コムチュア(株)	1	PwCあらた有限責任監査法人	2
国立大学法人千葉大学	1	関西電力(株)	3	スミセイ情報システム(株)	1	PwCコンサルティング合同会社	1
(株)FullHouse	1	大阪ガス(株)	3	ソフトバンク(株)	2	PwC税理士法人	1
サントリーホールディングス(株)	1	ウイール	1	パナソニックインフォメーションシステムズ(株)	1	アビームコンサルティング(株)	1
アサヒビール(株)	1	ダイビル(株)	1	ブリヂストンソフトウェア(株)	1	中央会計(株)	1
味の素(株)	1	(株)日本政策金融公庫	1	(株)バンク・オブ・イノベーション	1	有限責任あざさ監査法人	3
花王(株)	1	(株)国際協力銀行	2	(株)野村総合研究所	1	有限責任監査法人トーマツ	2
(株)資生堂	1	農林中央金庫	2	日鉄ソリューションズ(株)	1	アクセンチュア(株)	2
(株)サクラクレパス	1	(株)三井住友銀行	2	日本アイ・ビー・エム・サービス(株)	2	カンパニープレイスグループ(株)	1
(株)IHI	1	(株)三菱UFJ銀行	1	日本アイ・ビー・エム(株)	2	(株)FUND BOOK	2
(株)クボタ	1	(株)りそなホールディングス	1	日本システム技術(株)	1	中国農業銀行	1
(株)いけうち	1	(株)鹿児島銀行	1	日本ユニシス(株)	1	華為技術日本(株)	1
マツダ(株)	1	(株)南都銀行	1	Sky(株)	1	湖南大学	1
(株)豊田自動織機	1	三菱UFJ信託銀行(株)	1	(株)シンプルソフトウェア研究所	1	深川大学	1
三菱自動車工業(株)	1	野村證券(株)	1	(株)パワーエッジ	1	中国信陽市農林学院	1
日立オートモティブシステムズ(株)	1	(株)大和証券グループ本社	1	(株)ビーネックスソリューションズ	1	合計	161
ソニー(株)	2	楽天証券(株)	1	Bytedance	1		
パナソニック(株)	2	日本生命保険相互会社	3	Tencent	1	進学先	人数
京セラ(株)	1	アクサ生命保険(株)	1	シンプレクス(株)	1	大阪大学大学院	6
富士通(株)	1	東京海上日動火災保険(株)	2	テクサス(株)	1	名古屋大学大学院	1
アイリスオーヤマ(株)	1	三井住友海上火災保険(株)	3	(株)DTSインサイト	1	航空大学校	1
(株)島津製作所	1	(株)ジェーシービー	1	(株)Freewill	1	合計	8
(株)東海理化電機製作所	1	三井住友カード(株)	1	(株)JSOL	2		
日軽パネルシステム(株)	1	大阪信用保証協会	1	(株)インテック	1	合計	169
伊藤忠商事(株)	3	大和証券投資信託委託(株)	1	(株)システムエグゼ	1		
丸紅(株)	1	明治安田アセットマネジメント(株)	1	(株)シグマクシス	1		
三井物産(株)	2	オリックス(株)	1	(株)バイカレント・コンサルティング	1		

2020年2月末現在、大学で集計されたデータをもとに作成したものです



三菱ガス化学(株)  
代表取締役社長

**藤井 政志** さん  
(新29期)

## 大澤ゼミでコンピュータ、入社後も

マーケティングのゼミでコンピュータに。ビジネスゲームをやろうと膨大な量のプログラムを組んで8ビットのマイコンで読ませるんですが、動かない。これは無理だと阪大の計算センターに行ってFORTRANでパンチを打って走らせました。プログラミングを覚えてBASIC言語をわかるようになったのが、会社に入って役立ちました。1台100万円したコンピュータを2台買ってもらい、従業員のデータ管理や貸付金の計算などに活用し、講習会を開きました。

## アウトドアサークルでスキーツアー

京大・神大の学生と一緒に冬場はバスを仕立ててスキー場へ通い、初心者にはコーチしました。女子大を回ってチラシを配り、夏場はテニスの合宿でした。3回生の冬はスキー場からスキー場に100日間。スキーから帰って寒い中でサーフィンをしたことも。今も自宅近くの七里ガ浜でサーフィンをしています。

## 素材のイノベーションが世の中を

勉強はしなかったのですが、阪大の図書館にはよく行っていました。本で知ったのが、デュポンという会社がアメリカ経済を牛耳るに至るきっかけ、ノーベルが作った爆薬を第一次大戦で売りさばいたんですね。「素材のイノベーションが世の中を変えていっている」そういう会社に入りたいなあと化学会社に。大き過ぎない会社、というのも理由でした。

「ロウソクの科学」は中学校のとき理科の先生が貸してくれて読みました。ノーベル賞を受賞された吉野さんは小学校のときでしたけど(笑)。

## 人事部門に3分の2

新潟工場を振り出しに、本社営業、水島工場、再び新潟と、人事部門と事業部を行ったり来たり。入社した年は合併(旧三菱江戸川化学と旧日本瓦斯化学)から10年、古い殻を改めながら両社のいいところを活かしていく。オイルショック後に採用が少なく、上に人が少なかったんです。人事制度を大きく変えていきました。職能から業績主義へと報酬のあり方も。複数あった労働組合も一緒になって、アド

バイスしながらお互いを変えていくんですね。

## サウジアラビア

入社した1981年、サウジアラビアにメタノールのプラントを造ることが決まっていました。従業員を新潟から40名も50名も出す。海外に出ていく人たちの給料や寄宿舎をどうするかなど、制度を作っていました。

サウジ人のお世話係も担当しました。母国では酒の飲めないサウジ人が日本では飲んでトラブルも。警察から電話があって引き取りに行ったこともあります。社長就任が決まった時は、当時お手伝いしたサウジの人たちから電報をもらいました、うれしかったですね。

## オンとオフは完全に切り替え

仕事と全く違う生活を大事にしています。地方の工場だと朝8時に始まって16時半に終わるんですよ。新潟時代の週末は、夕方に仕事終わってから苗場まで行ってスキーをナイトで。楽しい生活でした。

水島時代はボート免許を取得し、スキューバダイビングも。瀬戸内の島に漁船で渡してもらって、メバルなどを釣りながら、素潜りもしました。冬場はマラソンを、「国際丸亀ハーフマラソン」にも出ました。

## 変革を支えるのが化学会社

スマホのレンズ素材でシェアの7割はうちです。今度は折り曲げられるスマホも。自動車の躯体も樹脂に。世の中が変わっていくのを支えているのが素材メーカーなんですね。

学生さんが就職するとき、30年先40年先に世の中がどう変化しているかを想像していかねば。GAFの時代は想像もつかなかった。予測の中の納得感をもって会社選びを。

## 地球環境への取り組み

温暖化問題がクローズアップされ、環境投資をしていかねばなりません。最も得意とする分野です。天然ガスを掘った跡にCO<sub>2</sub>を封じ込める。苫小牧で地下への圧入を実験的にやりましたので、これがビジネスにならないか。再生可能エネルギーでは地熱発電を秋田県や岩手県などでやっています。スマホのレンズ製造では樹脂の9割が捨てられていたのを道路のスリップ防止剤や車の部品に。化学各社得意な分野があるので、協力してやっていきたいです。

福島への貢献として、白河市に環境にやさしい「QOL福島工場」を作りました。相馬市には120万kWのLNG発電所を建設中です。

## 人にやさしい経営、社会貢献を

経営者は皆さんにお金を運ぶ係、投資しろと。史上最低の低金利、この時代に働きやすい環境を作れと。研究所もどんどん建て替えていて、現在500人強の研究者を2割くらい増やそうとしています。

屈折率の一番高いスマホレンズ用樹脂の開発によって「山村産業賞」を化学会社で初めてもらいました。それを原資に財団を作って、東南アジアからの留学生に奨学金を支給しています。



元大阪府危機管理監  
(現 日本赤十字社  
大阪府支部事務局長)

**大江(旧姓・高橋)桂子**さん  
(新29期)

## 学生時代の思い出

大人になったら就職して長く働きたいと願う生意気な女の子でした。経済学を志したのも企業への就職を意識していたからです。まじめに授業に出席、簿記の学校に通ったり、英会話やピアノを習ったり、素養を高めるために一途に頑張っていました。課外では、落研に所属するもほとんど活動に参加せず、三味線の稽古にハマってました。小泉ゼミでは数式が並ぶ理論経済学と英語の原書に悪戦苦闘。ガルブレイスの「ゆたかな社会」「新しい産業国家」は感銘深く、オイルショック後の経済社会がどう展開していくのかを学習課題にしました。

ある時、男子学生から、求人資料がダンボール箱2箱くらい送られてきているよ、と聞き愕然としました。私には2通しか来ていなかったからです。様々な企業に情報収集しましたが、女子はお断り、結婚退社前提、26歳がメド、という反応ばかり。女子学生に対する世間の風というものを感じ知ることに。勉強したってダメなんだと落ち込みました。ようやく女子の採用がある企業の内定をもらいましたが、男女平等で長く働ける仕事となると公務員しかない一念発起、試験勉強に邁進し、大阪府庁に就職することになりました。

## 社会人スタート

最初の仕事は婦人問題でした。財政や経済振興に携わりたいと希望を言うと、ムリとのこと。文化・児童福祉・消費生活・広報など、女性向きとされる仕事にしか配属にならないという話を女性の先輩から聞きました。1万5千人の職場で大卒事務の女性は、15人くらいだったと記憶していますから、公務員職場も男性社会だったのです。女性ではダメと言われないよう背伸びしていたような気がします。

そんな中、男女雇用機会均等法が成立、先輩方の奮闘、新入女子職員の増加などで職域拡大が進みました。こうした時代背景を追い風に、労働・教育・施設建設・防災・福祉・水資源・環境・観光・私学振興・青少年・治安対策など多

岐にわたる仕事に携わることができ、願いが叶ったとうれしく思っています。

## 管理職の難しさ

一方、女性の登用が進むと、スカートはいてれば偉くなれるとブーイングが出るほど、風当たりがキツクなりました。厳しい中傷の声を耳にし辛く苦しい日も。部長職になる頃から、ストレス性の眼病を患い、太り出したため、趣味のお茶・お花をやめ、トレーニングジム、ウォーキングなど、体を動かして気晴らしに努めました。何より、厳しくも温かい上司に恵まれ続けたことで多くを学び、精神的に落ち込まずに済んだのだと思っています。

2013年に府民文化部長に就任、所掌は幅広く多忙を極めることに。前例踏襲でなく難易度の高い仕事へもチャレンジしたつもりです。組織運営の難しさにも直面し悩むことも多かったです。私学振興を所管していた縁で、興国学園の故草島一理事長の生徒への言葉集を頂戴したのですが、「他人ではなく昨日の己に克て」という教えが心に響きました。「昨日の己に克つことが、明日の自分の糧になる、そのことは年を重ねても変わらない」とコメントが添えられていました。今も座右の銘にしています。

## 危機管理監として災害対応

府庁人生の最後に危機管理監を拝命しました。府庁そばの待機公舎に入居、台風が来ると休日夜間も職場待機です。私が務めた3年間は有事が多く、熊本地震や鳥取中部地震、西日本豪雨など他県の大災害への応援、北朝鮮のミサイル発射など様々な危機事象への対応に追われることに。2018年は大阪北部地震が発生し、被災者支援などで、ほぼ不眠不休の毎日。その最中の7月に西日本豪雨、9月には台風21号が大阪へ。教訓を生かすための有識者委員会を設置して提言をいただくという取り組みにも力を入れました。

最後の一年が、一番自分らしく仕事をし、やりがいを感じた年になりました。思い出を一杯作って定年を迎えることができ、本当に幸せでした。生意気な女子に機会を与えてくれた府庁には感謝の気持ちで一杯です。

## 人生の後半戦がスタート

昨年から日本赤十字社に再就職し、災害救護やボランティア支援などを担当。また、国の中央環境審議会の委員を仰せつかり、地球温暖化・気候変動の問題に微力ながら関わっています。今後とも夢多き女子の気持ちだけは失わないでいたいと思います。自分にとっての背骨に当たることは曲げずに生きていくことが、人生を豊かにしていくのではと思っています。

最後にPRです。遺産相続・節税対策をお考えの皆様、寄付にご関心のある皆様は是非、日赤大阪府支部への寄付をご検討ください。



コンテンツ制作ディレクター  
**本村 康祐** さん  
(新61期)

## 自作動画がニコニコ動画のランキング1位に

高校生の頃から、将来、普通の会社員になるイメージを持たず、大学在学中に何かしらのクリエイティブで成果を出して、それを生業にしたいと思っていました。経済学部に入学したのは、卒業論文がなく、自由に時間が使えると思ったからです。

大学1回生の学園祭では、お笑いグランプリに出場して準優勝、3回生の時には、『空き缶を捨てようとするやんわり逃げ出すゴミ箱作ってみた』と題する自作の動画をニコニコ動画に投稿したところ、これが評判となり、ラン



キング1位を獲得しました。「ゴミ箱の着ぐるみが豊中キャンパスに出没するらしい」と、友人の間でも話題になりました。これに自信を得て、都市銀行などのエントリーシートに動画のアドレスを記載して提出しましたが、軒並み不合格になりました。そりゃそうですよね(笑)

## オールナイトニッポン0の初代パーソナリティに

大学に入学した頃はテレビ放送の規制が厳しくなってきた時期でした。その一方、深夜ラジオでは過激で面白い企画が目白押しで、これからラジオがもう一度注目される時代がくると考えていました。ラジオ番組『オールナイトニッポン0(ゼロ)』のパーソナリティ募集を偶然目にし、「プロ・アマ問わず」「1年間」との応募条件に、“就職活動中の大学4回生がベスト”と確信。これも偶然電車で再会した中学時代の同級生の友人である西岡隼基さんを誘って応募し、1,609組の中から初代パーソナリティに選ばれました。金曜深夜の生放送のため、1年間深夜バスで有楽町のスタジオに通い、最終回の放送終了後には約70名のリスナーが日比谷公園に集まってくれた光景には感動しました。

## カードゲーム『WIXOSS』が大ヒット

ラジオ最終回の2日後、タカラトミーに入社しました。

同社を志望したのは、「大人向けのエンターテインメント商材に携わりたい」との理由でした。入社後はカードゲーム『WIXOSS(ウィクロス)』のアシスタントプロデューサーとして、キャラクターづくりや、イベント開催などを担当しました。カードゲームはその道のプロが制作しているので、遊んで面白いのは当たり前、いかにして「やってみたい」と思わせるかが重要です。そのため、ボディビルコンテストとカードゲームの大会を同時開催するなど、インパクトがあってバカバカしいイベント作りに努めました。『WIXOSS』は、2014年の発売から6年が経過してもシリーズが継続し、アニメが4クール続くなど、近年最も成功したカードゲームの一つだと思います。

## 独立しコンテンツ制作ディレクターに

私自身、入社当初から「いずれは独立したい」「35歳までには何か大ヒットを出したい」との思いがあり、30歳を前に退社を決意しました。

現在は、コンテンツ制作ディレクターとして、広告代理店とタイアップした新商品のPRや、YouTubeの漫画動画チャンネルの脚本づくりなど、コンテンツ制作に関わる様々な仕事を行っています。漫画動画の脚本づくりでは、制作の工数を減らしても豪華な画に見えるよう、映像コンテを描いて細かく指定しています。この辺りはアニメやゲームに携わった経験が活かしています。Yahoo! JAPANにもオーサー登録していただき、定期的に動画をアップしています。また、最近は出版社とともに、同人誌をはじめとするコンテンツの二次創作について、クリエイターとIPホルダーがよりオープンに関係を持てるプラットフォームを構築中です。

## 表現することに興味を持つ

大学では西洋経済史の鳩澤(ばんざわ)ゼミに所属しました。ゼミでの発表の際、「普通の発表では面白くない」と考え、自作の紙芝居を使って発表したことがあります。他のゼミ生は引いていましたが、先生は褒めてくださいました(笑) 私にとって、ゼミは「他人と違うことをして、何がウケるかを考える場所」でもありました。

経済学部の学生さんの多くは就職を考えていると思いますが、どんな会社でもクリエイティブに関わる機会があると思います。広告代理店にお任せしておけばそれなりの成果は出てくるし、楽ではあるのですが、皆さん自身が代理店の先にいるクリエイターと対等に会話できるようになると、より価値の高いクリエイティブを生み出せると思います。そのために、どんなジャンルでもよいので、モノを作って、表現することに興味を持ってほしいと思います。

公開できない仕事が多く、ボヤっとしたことばかり言ってしまいましたが、最後に実利的なアドバイスを。入学案内は隅々まで読むことをお勧めします。私自身、授業料免除や、Microsoft Officeの無料ダウンロードなどの恩恵に与ることができましたから(笑)

# 会員管理部会から

## 1. 同窓会WEB名簿の活用と登録情報の確認のお願い

### ○WEB名簿の活用

同窓会では、2014年2月から同窓会のホームページにWEB名簿を作成しております。同窓会ホームページのトップページからアクセスし、ログインIDとパスワードを入力すれば会員名簿をご覧いただけます。会員情報の検索のほか、ご自身の会員情報の変更手続きも可能になっております。

年会費を納入いただいた方は、納入いただいた年度と翌年度についても名簿閲覧ができます。同窓会年会費(5,000円)未納の方は、ご本人のデータしか閲覧できません。WEB名簿利用のためにも、同封の払込取扱票により年会費の振込みをいただくようお願いいたします。

まだWEB名簿をご覧でない方は、是非一度ご覧ください。「WEB名簿の利用方法」と「WEB名簿使用のルール」につきましては、同窓会ホームページの「名簿について」に掲載しております。ご利用前にご一読いただきますようお願いいたします。

### ○登録情報の確認会員

データ確認票を同封していますので、登録データをご確認いただき、修正・変更等が必要な場合は、WEBページから変更をお願いいたします。(FAXで同窓会事務局までお送りいただいても結構です)

## 2. 年会費納入のお願い

同窓会の活動は、会員の皆様の年会費をベースに成り立っております。財政事情厳しい折から、ぜひとも年会費(5,000円)の納入をお願いいたします。

### ○同封の払込取扱票による納入

2016年度から、同封の払込取扱票により、お近くのコンビニエンスストア(払込取扱票の裏面に記載)もしくは郵便局からご入金いただけます。

ただし、コンビニ収納は定額(5,000円)のみのお取扱いとなります。

協賛金対象の方、あるいは年会費・協賛金と総会懇親会

費とをあわせてお支払いいただく場合は、金額が記入されていない払込取扱票にご自身で金額をご記入のうえ払込ください。

### ○口座振替による納入

年会費はアブラスの「オートネットサービス」契約により、銀行等口座からの自動振替が利用できます。振替日は7月17日です。口座振替をご希望される方は、同窓会事務局までご連絡ください。後日、申込み書類をお送りさせていただきます。

ただし、口座振替は翌年度からとなりますので、2019年度につきましては、同封の払込取扱票により払い込みをお願いいたします。

## 3. 協賛金ご協力をお願い

会則により卒業後(正会員資格取得後)40年を経過した方には、年会費が免除されます。しかしながら、同窓会活動の基盤となる財政状況が厳しい状況から、年会費が免除された方で志のある方には、協賛金のお願いをさせていただいております。協賛金は1口1,000円で、できれば3口以上をお願いしております。同封の金額の記入されていない払込取扱票によりご入金をお願いいたします。

## 4. 納入者特典、同窓会会員証(ガーデンシティクラブ大阪カード)について

年会費あるいは協賛金をお支払いいただいた方には、同窓会会員証を送付させていただきます。

当同窓会では大阪梅田のハービスプラザ6階にあります会員制クラブ「ガーデンシティクラブ大阪」(GCCO)に加入しております。会員証をご提示いただくと、ガーデンシティクラブ大阪をメンバー扱いでご利用できます。

郵送料を節約するため、会員証は隔年発行で有効期限は2年とさせていただきます。

### 連絡先

大阪大学経済学部同窓会事務局

TEL 06-6850-5275(火・木・金の午後1時~5時)

E-mail machikane@econ.osaka-u.ac.jp

FAX 06-6850-5276

# 事務局からのお知らせ

## ■新会長に井上ゆかり氏(33期、1985年卒)が就任

昨年7月6日の総会で、新たに井上ゆかり氏(日本ケロッグ合同会社代表職務執行者社長)が会長、田上晴久氏(33期、株式会社サンビ代表取締役社長)、鳩澤(ばんざわ)歩氏(37期、大阪大学大学院経済学研究科教授・副研究科長)が副会長に就任されました。同窓会のさらなる活性化に取り組んでまいりますので、会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

## ■第16回経済学部ホームカミングデイ(5月2日)を開催します

毎年5月のゴールデンウィークに開催される大阪大学ホームカミングデイにあわせて、経済学部ホームカミングデイを豊中キャンパスで開催します。

今年は5月2日(土)、大学のホームカミングデイ懇親会が終了後、13時15分から経済学部本館中庭会議室で開催します。ご家族とご一緒にご参加いただけます。詳細は、

経済学部同窓会のホームページ(<https://machikaneyama.jp>)でご確認ください。経済学部長の福田先生にもご出席いただきます。ぜひお誘いあわせのうえご参加ください。参加費は1,000円です。お待ちしております。

(新型コロナの影響により大学のホームカミングデイが延期等になった場合は、本行事も延期等とします。一日も早い収束を願っています。)

## ■次回の総会は2021年7月3日(土)に開催します。ご参加ください。

昨年7月6日(土)に開催した第23回総会には多数の同窓生の皆様にご参加いただきありがとうございます。経済学部同窓会の総会は隔年で開催しており、次回総会は2021年7月3日(土)開催の予定です。同窓生の皆さまにはふるってご参加いただきたくあらかじめご予約おきくださいますようお願い申し上げます。